No.14

学校図書館 司書だより

2012年11月

図書館クイズ

読書週間は「文化の日」をはさんだ10/21から11/9の2週間です。

今年は第何回だったのでしょうか。

わたしと読書

私の読書人生ですが

井上　光彦

本屋さんに出かけて行く。中に入ると、新刊の匂いに襲われる。見てまわるうち、「あれもほしい。これもほしい。」という衝動にかられる。こんな経験は本好きなら誰でもが味わっているはずだ。だが、今、私はあえて古本屋に足を運んでいる。新しい本の魅力もさることながら、古本にはある楽しい経験ができるというわくわくするような魅力があるのだ。

こんな例。ある古本屋で本を見あさっていた時、そこに懐かしい本を見つけた。それは、小学校時代に読んだ本で、その物語の感想文を書き、コンクールで入選をした本。この再会はうれしかった。古くはあるが、小さかったあの頃の思い出が、その本を手にした時、脳裏に浮かんだものだ。それ以来、通りすがりの古本屋で本をあさっている。

父が時代小説が好きで、沢山買おうと思うと、やはり古本屋が良い。時折父を連れて古本屋に出かける。一冊百円の単行本は買うに経済的。父は「古本は字が薄くて見にくい。」と言うが、よく中身を確かめて買えばよいのだと言い聞かせている。こうして古本屋に入る機会の狭間に、時折新刊の匂う本屋に行くと、新鮮な感じが味わえるのもまたまた魅力。

読書感想文の話に移るが、実は感想文そのものを書くことは嫌いであった。二年生の時感想文に入選し県出品となったため、当時の厳しい先生に徹底的に指導された。友達もみんな帰った後の教室で真っ赤になった原稿用紙を見ながらさらに直して再び見せる。これが二～三日続いたものだからとんと嫌いになってしまったが、当時は夏休みの宿題であったため、避けることができない。明くる年もまた書き、また残ることに。

そんな気持ちのはずなのに、教師の世界に入り、専門教科に国語を選んで、生徒に指導をしているのだから不思議だ。

当時の先生の厳しい指導は嫌だったのではなく、私に課せられた運命だったのかもしれない。

●……●

井上先生は、双葉中の校長先生で、市内小中学校図書館教育の推進担当をしておられます。

読書タイム

市内の学校・園・施設の子どもと読書をのぞいてみました

太田小学校

太田小学校では、図書館を利用して、たくさんの人に読書を楽しんでもらいたいと、毎年図書館祭りを行っています。

今年は、「いろいろな分類の本を読もう」をテーマに取り組みを行いました。

昔話や生き物に関する本、歴史の本など、興味がないと手にとらないような本でも、たくさんの子にも読んでもらうために、図書館ビンゴを行いました。例えば低学年では、今まで絵本しか借りたことがなかった子が多く、「こんな本が図書館にあったんだね。」と喜ぶ姿がありました。

この図書館祭りを成功させるには、図書委員の活躍がなくてはなりません。図書の貸し出しカウンターでパソコンを操作したり、図書館ビンゴができているかチェックしたり、どこにどんな本があるか分からない子に優しく教えたりすることを全員で取り組みました。忙しくても笑顔で対応する図書委員の姿がとてもすてきだと感じました。

また、今回図書館祭りを行うにあたり、図書館を大幅に改装しました。今まで少し離れて二つの場所にあった図書館を、一か所にまとめたのです。そのおかげで、本が探しやすくなり、効率よく図書館を利用できるようになりました。

この図書館祭りをきっかけに、子どもたちがさまざまな種類の本と出会い、読書の幅を広げることができたらいいと願っています。

図書館ビンゴ（高学年）

年　組　名前

①すいせん図書を借りる。「　」	②読み聞かせフェスティバルにいく。「　」	③２分るいの本を借りる。「　」
④外国の作家の本を借りる。「　」	⑤本を5さつ借りる。10月15日～26日	⑥図書委員にじゃんけんで勝つ。（　）
⑦３分るいの本を借りる。「　」	⑧本は友達の本を借りる。「　」	⑨５分るいの本を借りる。「　」

☆ ①すいせん図書を全部読み終わった人は、たんにんの先生のサインをもらいましょう。
☆ ②フェスティバルで一番気に入った本の題名を書きましょう。
☆ ⑥図書委員のサインをもらいましょう。

伊深親子文庫

伊深小での読み聞かせ

第二金曜日。今日は伊深小学校での読み聞かせの日です。朝の家事に取りかかる前に、今日読む本を取り出しておさらいです。

八時、小学校へ到着。校長室でお仲間と一緒にお茶を一服いただきます。各学年の当番の子たちが呼びに来ました。今日は私は一年生の教室です。S君が呼びに来て、一緒に教室に入りました。

今日の本は「ずっとそばに」。いもとようこさんの本です。一年生の子たちは、一生懸命聞いてくれて、「くまさんがかわいそう」「動物たちがくまさんにかわいがられていた」などと、感想を話してくれました。

私が伊深小で読み聞かせをさせていただくようになって、六年ほどになります。本を読むことが好きで、親子文庫に加わりました。そのご縁で、読み聞かせを頼まれましたが、最初はとてもとまどいました。自分で好きな本はよく読むのですが、わが子にも充分読んで聞かせたことがなかったからです。伊深小では、毎月第二と第四金曜日の朝八時過ぎに読み聞かせの時間があります。各学年に一人ずつが伺って読み聞かせをします。同じ学年が続かないように、あらかじめ、ローテーションを組みます。

本を読むのも大変ですが、その本選びもなかなか大変です。学年に合った本を選ぶのですが、他の人が以前に読んだ本と重ならないよう、なるべく季節感も取り入れ、自分の力に合った本でなければ…などと考えると、親子文庫にたくさん絵本があっても、その本の前で、ああだ、こうだと悩んでしまいます。選んだ本がふさわしくなかったり、読む力不足のときなどは、子どもたちの反応もよくなくて、肩を落とすのですが、熱心に聞いてくれて、感想がたくさん出ると、嬉しくなって、みなさんとの話もはずみます。

読み聞かせをさせていただくようになり、声を出して本を読むことの大変さと同時に、面白さもちょっぴり味わうようになりました。子どもたちの感想を聞き、さまざまなとらえ方があることも知りました。

伊深小での読み聞かせの回数は、年間二十回近くに及びます。つたない読み聞かせの私ですが、その一端を担わせていただくことにより、少しでも本が好きになり、小学校の思い出になってくれたらと願うとともに、私自身も子どもたちから、本から、たくさんの影響を、今まで以上に受けたいと願っています。

（福田美津枝）

伊深親子文庫は地域文庫として、昭和五十三年以来、毎週火曜日、伊深自治会館の一室で本の貸し出しを行っておられます。

図書館クイズの答え　第 66 回です。

戦後間もない昭和 22 年、「読書の力によって平和な文化国家を作ろう」と始まりました。・

この本読んでみて！

えほん

「ウェン王子とトラ」

チェン・ジャンホン作
徳間書店　1995円

昔、夜ごと村を襲うトラに困りはてた王は、占い師の「王子をトラにさしだせば、国に平穏が訪れる」の言葉どおり幼い王子をトラのすむ森に置き去りにします…人間を憎みながらも、幼い者を愛するトラ。トラの元で強く優しい少年に育った王子。王子とトラの間に生まれた絆が心を揺さぶります。中国の水墨画の手法で描かれた力強い絵。母の子を思う気持ちに涙すること間違いありません。

物語

「ココロ屋」

梨屋アリエ作
文研出版　1260円

「ココロを入れかえる」ということばはよく聞きますが、ほんとうにココロをとりかえることができたらどうしますか。「ココロ屋」はそんな願いをかなえてくれるところです。ともだちとなかよくできなくて、いつも先生にしかられているぼくは、「ココロ屋」でココロをとりかえてもらいます。やさしい心、すなおな心、あたたかい心とためしてみますが、どうもうまくいきません。いろいろ考えたぼくが、最後に気がついた大切なことはなんだったでしょう

小説

「小学五年生」

重松　清作
文春文庫　540円

十七編の短編のどれも主人公は小学五年生の少年。子どもから思春期へのゆれる心が身近な生活の中で描かれています。出会い、恋心、いらだち、別れ…きっとこんなこと考えてるんだなあ…ていねいに子どもの心に寄り添いたくなります。六年生の国語の教科書でも紹介されていますよ。

大人むけ

「おさがしの本は」

門井慶喜　作
公文社文庫　650円

図書館が舞台になる小説はいくつかありますが、この本もその一冊。図書館のレファレンス・カウンター（利用者の依頼で本を探し出す仕事）に務める職員が、財政難による図書館廃止に巻きこまれていく…という内容です。果たして図書館は存続できるのか、という議論も面白いのですが、“図書館ではおさがしの本を探す手助けをしていますよ！”ということをお伝えしたくて、紹介しました。本が見つからないときは、図書館にご相談ください。（前号で内容を誤って紹介してしまいましたので、再掲します。申し訳ありません。）